

ひきこもり支援強化

県、越谷に相談センター

ひきこもりに特化した相談窓口を設けて支援体制を強化しようと、県は2日から越谷市にひきこもりの相談サポートセンターを開設した。運営は、県から委託を受けたNPO法人「越谷らるる」が行う。越谷らるるは同市でフリースクールなどを運営し、相談サポートセンターも併設する。相談員は3人。相談員の中には子どもの不登校に悩んだ母親としての経験を持つ女性もいる。越谷らるるの鎌倉賢哉事務長(41)は「当事者目線を大事にして、一緒に課題に向き合いながら伴走したい。息の長い支援ができれば」と話している。

(福田龍之介)

県によると、県内のひきこもりは、2010年に内閣府が実施した実態調査に基づくと3万9千人と推定される。476件、14年度が2370

の兼ね合いなどから十分な支援体制が整っていなかった。越谷らるるは1992年に不登校の子どもを持つ親などを中心に設立。6、20歳までを対象のフリースクール「りんこの木」の運営などを通じて不登校、ひきこもりの子どもらと向き合ってきた。鎌倉

件とほぼ横ばい状態が続いている。相談はこれまで保健所や県精神保健福祉センターなどが担ってきたが、他業務と

り、相談専門のスタッフが配置できる」と話す。相談後の支援も就労や教育、医療など県の各機関と連携することで、よりスムーズなサポート体制を構築できるようにする。

相談員の木村量子さんは、娘3人が不登校になった経緯を持つ。相談員について「何の資格もないのにいいのかな

と思ったけど、「体験が大事だから」と。(相談は)同じ立場だから、同じ目線で」。木村さん自身も長女が不登校になったときは悩んだという。「不登校はあってはならないと思われると、うちの子だけが悪いのではないか、親の育て方が悪いのではないかと自分を責めてしまう。私自

身も長女を学校に行かせようとした。長女にはつらい思いをさせたかなと今は思う。悩んでいるお母さんたちに自分のような思いをしてほしくない」と話す。

相談員の阿部啓司さんは、設立当初からのメンバー。「学校に行かなければいけないとか、授業に出なければいけないという常識を持っているがゆえの重圧やストレスを外してあげたい」と話している。

相談対象は、6歳以上でひきこもりの状態の人、家族、関係者。相談は無料。時間は毎週火、日曜日、祝日、年末年始を除く午前10時～午後6時まで。電話相談は048・971・5613へ。



2日から開設された県ひきこもり相談サポートセンター。6日、越谷市千間台東

971・5613へ。